

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ Adult・Gerontological Nursing PracticeⅡ	担当教員 (研究室番号)	大川 明子 (305) 他	教員への連絡方法 (メールアドレス)	
履修年次	3年次 後期	科目 区分	専門科目	選択 区分	必修
				単位数 (時間)	4(120)
				授業 形態	実習
				科目等 履修生	否
				オープンクラス	否
科目 目的	回復期・慢性期にある対象者（家族を含む）を受け持ち、健康課題を理解し、各健康レベルに応じた支援をおこなうための看護実践能力を養う。また、医療施設だけで完結するのではなく、対象者（家族を含む）が安心して療養できるよう、地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の理解を深め、療養の場への移行における支援についても学ぶ。				
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。（技能・表現） E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。（思考・判断） F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。（技能・表現）			
	関連するDP				
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人の身体的、心理的、社会的側面を捉え、多角的に理解することができる。 2. 看護の対象となる人の健康課題を明らかにすることができる。 3. 看護の対象となる人の家族の思いやニーズを理解し、支援の必要性を検討することができる。 4. 看護の対象となる人の健康あるいは生活上の課題に必要な看護計画を立案し、実践することができる。 5. 看護の対象となる人の社会的背景を理解し、多職種連携と協働しながら看護師の役割について理解することができる。 6. 看護の対象となる人に必要な退院支援を検討することができる。 7. 専門職者を目指す学習者として、省察と実践知を高めるための自己研鑽ができる。 				
成績評価方法 (基準)	実習内容、自己学習、受け持ち患者記録、出席状況により目標到達度を点数化し評価する。				
再試験の有無と 基準等	「実習の出欠席および追実習に関する取扱要領」の第4条の記載される理由による1/4以上を超える欠席の場合に、追実習を認めることがある。				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	特に指定しない。				
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	自己学習をしっかりと行って、看護を実践する者として必要な態度で実習に臨んでください。実習を通して患者や家族とのかわりや看護師による看護の実際を見聞きすることによって、皆さん自身が悩んだり頑張ったりする中で、教科書や学内の講義・演習では学べないことが、実感として身につくと同時に、多くの充実感や達成感が得られることを期待します。				
備考					
学 習 内 容					
<p>実習期間 : 4週間 内容と方法 : 健康課題を有する人を1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>* 「実習要項」 参照</p>					

学 習 課 題

--

実務経験を活かした教育の取組

<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。 ・行政機関や学校等において保健師や養護教諭として実務に携わった教員が指導する。また、実習施設では実務指導者から指導を受ける。
